

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600481		
法人名	社会福祉法人 秀峯会		
事業所名	グループホーム清風		
所在地	長崎県五島市武家屋敷1丁目5番47号		
自己評価作成日	平成 28年10月20日	評価結果市町村受理日	平成29年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4270600481-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4270600481-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成28年 12月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

接遇、介護の心がけとして、「安心感が大切、否定しない、ペースを合わせる、出来ることを出来るだけ」。穏やかな雰囲気作りの中で、日常生活を過ごして頂くように支援します。又、介護技術の向上に努め、介護ミスによる事故防止。職員の安全衛生管理を行うなど、程よいストレスを保ちながら働きやすい職場なるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは五島福江の城下町に設置され、近隣にはお城・学校・商店街等があり、入居者が地域との触れ合いを保ちやすい環境にある。ホームの運営方針として接遇の向上やゆっくり過ごして頂く環境の提供(安心感の重視・否定しない・ペースに合わせる・出来る事は出来るだけしてもらう)を定めており、職員もその目標に向けて協力してケアにあたっている。警察の方を招き不信者侵入対応講座を実施したり、近隣薬局の方に居宅療養指導管理をして頂く等、地域資源を活用しホーム運営に役立っている。またホームでは認知症サポーター研修を実施されたり、法人本部では職場体験受入等がなされ、長年の高齢者介護で蓄積されて知識や技術を地域に還元しようとする姿勢を伺う事ができた。入居者の高齢化により、以前に比べて行きたい所へすぐに行ける訳ではないが、行事や日々の散歩・買い物等を通じ、外部環境に入居者が触れ、生活を楽しく頂くよう工夫してホーム運営を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「三つの幸せ(利用者様、職員、地域)」をもとに、清風理念「安心感が大切、否定しない、ペースを合わせる、出来ることを出来るだけ」。接遇を大切に、穏やかな雰囲気の中で生活できるように、チームケアの充実に取り組んでいます。	接遇・介護技術の向上・穏やかな雰囲気作り・情報共有によるチームケアをホームの運営指針の一つと置き、入居者が安心して暮らせる環境を提供できるよう丁寧なケアを実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より、近所の方達との日頃の挨拶を交わし、町内会にも入会し回覧板も利用者様と一緒に直接持って行ったり、調剤薬局へお薬を散歩がてらに行っている。施設の裏に新築工事の際には、挨拶に来られたり等。餅拾いに参加したり、台風の時には、風向き等助言をもらい防災に役立った。行きつけの整体師の訪問などもある。	法人本部で介護実習等の職場体験を実施したり、ホームにて認知症サポーター研修を行う等、地域社会に対して長年の経験で蓄積された認知症ケアの技術・知識を還元するよう取り組んでいる。また行事に保育園児が踊りを披露する等、入居者にも楽しんで頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内に近いため、随時の見学もある又、地区の会議などの開催場所の提供も申し出ている。必要時は近所の介護タクシーを利用している。大波止に近い事もあり、離島の御家族様や遠方の御家族様も立ち寄って下さっている。警察の巡回などもある。駐車場を利用してUターンにも活用されている。認知症ケアサポートの研修等も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告は、スケジュールの実施録を見て頂き、サービス提供の実際や職員の資質向上の取り組みを伝えている。又、一緒に勉強会をしている。御家族様も真剣に参加されている。問題提起もあり、市の職員様からの様々な助言もある。薬剤師、デイ利用者様の参加などもあった。	会議には入居者家族・地区代表・行政職員等が参加され、活動報告や日々の生活状況が報告され、その場で出た意見はホーム運営の貴重な資料として職員は認識している。7月に実施された会議では、食中毒対策・熱中症対策の取り組みや薬剤師の方より、居宅療養指導管理について説明して頂く等、より安全なホーム運営の為に会議を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	そのようにしている。市の長寿介護課の担当者への随時の書類提出や不明点などの相談を行っている。電話相談、直接、出向いたりしている。入退所時の届けの他、介護保険情報の提供、入居情報の問い合わせなどもある。	日々の運営で必要となる法改正情報・権利擁護関係・介護保険関係等について、その都度情報交換を実施して、ホーム運営に活かしている。また感染症対策研修等の各種研修に参加し、職員の介護技術の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	組織全体で身体拘束廃止委員会がある。身体拘束の勉強会を行い、「具体的な行為」を理解し拘束をしない対応に努めている。ご家族様にも、運営推進会議で勉強会を行うなど理解して頂いている。	身体拘束委員会の設置や勉強会を通じて職員一人一人が、それぞれの利用者に対して意思を抑圧しないケアを実施できるよう努めている。またスピーチロックを出来る限り減少させる為に、声掛けの仕方・声の音量が適切になるよう指導し、注意点があれば迅速に改善するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組織全体で虐待防止委員会がある。組織全体で高齢者虐待法に関する理解や知識を深めている。普段より意識し虐待防止に努めている。社会問題にも真剣に受け止め、当施設ではどうか？等。又、安全対策として「さすまた」の使用の実習も行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに職員への説明を行っている。対応が必要な利用者がいるので活用。ご家族とその担当者との連携をとり支援を行っている。権利擁護の知識として理解を深めている。又、成年後見人制度も同様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、質問にも応じたり、理解できるように説明している。利用料金の内訳、加算についても説明し、納得して頂き同意書を得るようにしている。改定時や介護度が変わった場合等、都度、同意書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時、電話での応対時(緊急時、荷物が届いた時等、様子伺いの電話)職員がご利用者様の状態把握を行い、どの職員でも対応し、又、ケース記録を見て頂ようにしている。意見、要望が出しやすい雰囲気作り、玄関には意見設置箱もある。	入居者やご家族からの意見は書面で記録し、職員間で意見を確認し、出来るだけホーム運営に反映できるよう努めている。また運営推進会議や日々の面会時等に家族の方と話す機会があるが、職員や管理者は意見要望等を伝えやすい雰囲気造りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、課題、問題提起は随時日に検討し、日頃のコミュニケーションを十分に取ながら連携を円滑にしている。連絡帳の活用、日々の記録、受信記録、勤務交代時の申し送り等を通し情報を共有するようにしている。業務マニュアル化し、統一したサービス提供に努めている。職員の安全委員会もある。	職員の健康管理の為、安全委員会をホームに設置したり、また夜勤の担当を分散させる等して、一人の職員に負担がかかりすぎないよう配慮している。ヒアリングした職員の方より、職員間のチームワークが良い事も何う事もでき、また職員の勤務年数の長さからも「働きやすい職場」だと感じた。職員よりアイデアがあがった場合は、運営に取り入れる事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。資格取得後の手当等もある。人事考課を一年に2回実施。自己啓発、職務への意識を高め、資質の向上に取り組んでいる。永年勤続者の海外研修、リフレッシュなどのレクリエーションもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間通しての研修会を計画し、知識や技術を習得できる体制を整えている。外部への研修参加を行い、その内容についても伝達報告している。グループホーム職員として必要な知識、技術の習得に努めている。OJT新人研修等に活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し研修をし他施設との情報交換を行っている。又、同法人内のグループホームとも密に連絡を取り合い相談しあっている。特養、デイ職員との勉強会、互いの訪問などもある。法人以外の居宅サービス事業者等からの情報提供もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接を行い、本人に要する情報把握に努めている。又、ご家族や担当ケアマネージャーとも連携し、事前準備を行い、本人、家族様が安心して入所でき、安心して生活が送れるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問を行うようにし、本人との面接に家族にも立ち会って頂き、情報を得るようにしている。いつでも本人、家族様の要望を傾聴、信頼関係づくりを継続できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の実態や要望を伺い、必要に応じて他のサービス利用の調整を行ったり、他の職種との連携を図りながら柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに関心を寄せ、その方に合った楽しみや話題づくりを心がけている。個人の能力を発揮できる事で役割意識を持つ事でその方の自信になるようにしている。「何か手伝うことは？」と積極的な言葉も聞かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、電話、毎月のグループ便りでは日頃の生活の様子を家族に詳しく伝え、ご家族と一緒に支えていく関係を築いていけるように支援している。急変時の対応についても、確実に連絡がとれるように「緊急連絡先」を明確にしている。各行事参加への協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、外出、外泊をしたり、墓参りや自宅で過ごしている。毎日のように御家族の面会や近所の知人の面会もある。(自宅の町内会の方から定期的に自宅の様子の報告がある)馴染みのお店に食べ物を買に行ったり、御家族様と一緒に自由に外食にも行っている。	本人や家族から入居前の知人友人の方等を伺うようにしている。馴染みの方がホームへと来訪した際は、入居者と会話を楽しんで頂く場としてホームが機能している。また近隣の商店街やお墓・神社等に出来向き馴染みの場を散歩する事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間、余暇時間等は、利用者同志のコミュニケーションを大切にしている。一緒に洗濯物を干したり、たたんだり、仕訳けができる人が仕訳し、ご自分のはご自分で持っていつている。それぞれの力量に合わせた作業やレクリエーションを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況を考慮し、臨機応変対応している。面会に伺い、その後の様子観察を行っている。入所中に、築きあげた信頼関係を継続するように努力している。知人に紹介、見学や申し込みに至るケースもある。退所後も偶然のあったときは、どの職員とも言葉を交わしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを大切に尊重している。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者からの協力もある。「元氣な時こんな風に話していた」との情報等があり活用している。「周りに沢山物がないと落ち着かない」などの情報がある。	職員は利用者に対する日々のケア(レクレーション・入浴・浴槽・団欒の際)を通じて、コミュニケーションをとり、信頼関係の構築の中で「言いたい事・伝えたい事」を把握できるよう努めている。また生活動作に失敗した時は、怒ったりせずに優しく対応する事で、抑圧による不満・ストレスが生じないように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅に事前調査に伺い、ご本人、ご家族、関係者などから情報を得るようにしている。入居後も面会時、電話等で関係機関やご家族から情報を提供していただき、環境の変化時の不安を軽減に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅、施設、病院入院後を経ての入所とケースは異なっている。御家族様、担当ケアマネ、施設の担当者、病院スタッフ等、その方を取り巻く関係者様からの情報を得ている。生活歴、既往歴、御家族の関係などの把握に努めている。その方にとって必要な情報収集に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人、家族の思いや希望を伺ったり、関係機関からの情報、職員間の情報を得ながらケアプランを立案している。策定した計画内容については、再度、御家族様に説明している。ファイルにして全職員がいつでも見れるようにしている。	入居前及び入居中の生活状況や既往歴等を把握し、本人にとってよりベストなケアプランを作成実施できるよう努めており、プラン作成には家族意見を反映するようにしている。工夫を施した計画実施により介護度が身体状況が改善したケースもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、必要な情報は保管している。職員の気づきや利用者の状態変化は、申し送りノートや、日々の記録している。必要に応じ、話し合いしてそれを活用したケアを行っている。受診、往診の際には、事前には職員で検討している。受診記録なども行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、臨機応変に柔軟に対応している。医療連携体制、往診を活用して受診や、入院の回避、入院した時はお見舞いに伺い、状態の観察等、早期退院の支援、施設でできる医療処置を受けながらの生活の継続を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市街にあり、市役所、郵便局、スーパー、かかりつけ医も近い。天気の良い日は買い物にも出掛ける。デイサービスも併設しており、友人、知人の面会や他職種の訪問などもある。整体師によるマッサージをしている方もいる。警察署の不定期ではあるが巡回もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院があり、毎月一回の往診がある。訪問看護も毎週一回。何かあれば相談など密な連携を図っている。年1度の健康診断、インフルエンザ接種なども行い、急変時においても訪問看護師と連携を取るなど適切な医療を受けられるように支援している。	服薬管理については、誤薬が生じないよう定期的に注意喚起を職員に促している。近隣医療機関がかかりつけ医となっているが、家族や入居者の希望により、臨機応変に受診機関を選択できるように支援している。訪問看護師の方や薬剤師と連携をとり、医療のケアについて情報を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	そのようにしている。訪問看護は、24時間対応体制である。連絡すると、適切な助言や処置がある。普段においては、情報、気づきを記録し報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。入院中の面会を行い洗濯物の回収、必要物品の補充、又回復状況を医療機関、ご家族とも情報交換を行っている。速やかな退院支援に向けて必要な支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針については、契約時にホーム内でできる最大ケアについて説明している。状態の変化があるごとに、家族や本人安心して頂けるように、(遠方である場合は、状態報告を電話や手紙など書いて報告する等)支援している。看取り介護にも取り組んでいる。その際には、主治医より訪問看護、御家族、清風と話し合い、契約を交わし行っている。	看取りに関する指針や各種書面等は整備されており、また各種研修・勉強会・医療関係者の指導等を通じて、本人や家族が望む適切なターミナルケアを実施できるよう努めている。看取り対応については、家族に対し入居者の意向や状態報告を丁寧に言い、情報共有を徹底している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設全体で、救急・応急方法の訓練を、消防署・救急救命士の指導のもと研修を行っている。施設全体で緊急時のマニュアルを作成している。タッピング法、腹圧など誤燕した場合、心肺蘇生法など、急変時の対応方法を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て年2回総合訓練を行っている。火災に備え、消火器、自動通報装置、スプリンクラーを設置。防火器具、装置の点検も年2回(業者)操作方法に付いても学習している。災害後の体制については避難訓練を避難計画に基づき実施している。(備蓄管理、連絡先、避難場所、情報管理、移送車両、所用時間、避難経路など)	マニュアル確認や消防訓練の定期的な実施を通じて、職員の方に火災時の行動(避難経路・初期消火・消火器の操作や設置場所の把握)について勉強して頂いており、ヒアリングした職員よりその把握を確認出来た。また避難訓練の際に生じた反省点等は記録に残し、改善対応するようにしている。	ハザードマップを活用し、各種自然災害時に対応した避難経路の把握を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し言葉かけをしている。毎日、又は、一日のうちでも気分や表情が違うので観察し、その様子を職員間で共有するように努めている。「原因」を探りながら、不安の軽減に努めている。利用者のプライバシーの確保に努め、接遇面においては随時に指導を行っている。	接遇向上はホームの運営方針の一つであり、職員の言葉遣いや対応が入居者の自尊心を傷つけていないか職員同士確認しあいながらケアを実施している。また入居者の顔の表情や言動を丁寧に観察し、ストレスや不満がたまっていないか確認し、本人本位の生活を送れる様にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日、その時の本人の気持ちを尊重し、作業や趣味活動等も無理強いはいしない。その方の力量の把握を行い、少しでもできるように自信と意欲向上へ向けて支援をおこなうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで、本人が望む過ごし方が出来るように支援している。季節や日付、時間、これから何をするのか？等伝えている。同じ内容を繰り返し伝えながら、本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室からの出張があり、好みの髪型を希望している。衣服についても、好みの衣服を着ていただくようにしている。(家族からの贈り物の衣服等)。季節に合った衣服選び、その方の整容、美容のあり方を大事にしている。自作の衣服を着ている方もいて、その手技をたたえたと喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、箸配り、下膳など食事をするまでの過程動作を行ってもらい、食事への楽しみを大切にしている。食事作り時の匂いは「食事時間」のお知らせにもなり、自然とホールに集まる。ミニ菜園では、野菜を栽培し、収穫の喜びを味わっている。料理の仕方を教えて頂いている。	残食調査結果や本人の咀嚼力に応じた献立を作成するように努めており、また食事に関わる一連の作業に入居者が関わり自活力を活かしている。外食(バイキング等)や行事(正月・誕生日・納涼祭り等)の際には通常とは違うメニューを提供しており、少しでも食事を楽しんで頂ける工夫を施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人、お一人の、栄養状態を、食材、形態、食事時間などに工夫している。一日全体を通じて、記録しおおよそ把握している。個々の嗜好物も大切にしている。食事摂取が困難な時は、主治医へ相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行なっている。必要時には、ご家族にも相談、報告を行い、歯科受診をできる体制をとっている。協力歯科医院もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の把握をしている。なるべくトイレで排泄を行えるように誘導している。パットの使用量を減らしたり、その方に合った排泄の自立に向けて取り組んでいる。トイレで排泄する事で、快適に過ごせるように支援している。	快適な排泄状態を保つ為に、水分補給を大切にしている。また排泄チェック表を作成し、排泄状況を把握する事で、入居者の排泄能力の応じた支援を実施するようにしている。排泄行動の失敗があった場合は、その自尊心を傷つけないようやさしい対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方の通常の排便状態を把握している。食材、水分摂取、適度な運動を勧めたり、便秘時の体調、行動に注意している。便秘が続くときは、随時に訪問看護や主治医へ報告し、スムーズに排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	機械個浴で、ゆっくりとした姿勢で浴槽に入浴できる設備。浴室、脱衣室は適度の気温調整ができる。好みの湯の温度に合わせて等生活習慣、希望なども伺いながら対応し、入浴を楽しんで頂いている。介助負担の軽減にもなっている。	器械個浴を導入しており、入居者及び入浴介助する職員の負担の軽減にも繋がっている。また湯温の調整・更衣室の温度調整はその都度担当者が実施し、快適な入浴環境を提供できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の睡眠状態、日中の様子を把握し、不眠の原因を受け止めている。一緒に過ごし、会話、水分補給等気分の安定に努めている。又、日中は離床し、活動できるように働きかけ、リズムのある生活することで安眠できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、調剤薬局と密な情報交換をしている。お薬手帳の重要性、薬の目的又、安心して内服できるように指示を受けている。お薬が変わった場合でも、混乱しないように確実な内服に努めている。定期的に薬剤師の訪問がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味、得意とする事を活用し、気分転換できるようにしている。途中で止めてしまう事もあるが無理強いはしないようにしている。「何かをしたい、してほしい」気持ちを言える雰囲気を作り、楽しみのある日常生活になるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、本人の気分や希望に応じて、買い物、ドライブ、散歩に誘っている。本人様に合わせた方法で外出の支援を行っている。誕生日プレゼントで「行きたい場所」へ連れて行ったり、外出、外泊などの送迎も行っている。その場合は、御家族様など関わりのある方と協力しながら行っている。	近隣には石田城跡があり、お堀や庭園を散歩する事もあり、季節の風景を楽しんで頂いている。また法人全体の運動会や、納涼祭・敬老会・コスモス見学等の各種行事を実施し、入居者が外部環境に触れる機会を作っている。日頃の定期的な散歩や買い物等は本人の体調状況に応じ、随時行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持参する事、ご自分で支払いをする事で安心されている。スタッフは、その方の力量を理解して、金銭管理への支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に、電話利用時には、スタッフも傍にいて話を聞いたりしないようにしている。利用者様の希望に応じて、日常的に電話や手書きを出せるように支援している。御家族からの電話でも、取り次ぎゆっくり話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、観葉植物、手作りのぬいぐるみ等置き家庭的な雰囲気になるように配慮している。対面式の台所から見渡せ、食事作りの様子もわかる。長いソファアーに座り、くつろぎながら、足裏マッサージ等行っている。ラジオ、テレビ、BGMの効果も活用し、居心地よく過ごせる工夫をしている。「広場」「食事場所」「誰かがいる場所」など、思いは違うようだが、「ほーる」に行きたいと言われる。	リビングは食事・レクレーション・団欒をする場所として機能しており、訪問した際には会話を楽しむ方やゆっくりとソファでくつろぐ入居者の姿を見る事ができた。壁面には、行事活動の際の写真や飾り物が掲示されており、生活の記録を見る事ができる。清掃も適切に実施されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	要所には、椅子、長椅子を用意し、一人で景色を見て過ごしたり、時間帯に応じて、テレビをつけたり、BGMもその場の雰囲気にあった曲を流したり、ラジオをつけている。簡単な作業をしながらゆっくりと仲間同士で過ごして頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品、好きな雑誌、使い慣れた道具、寝具等 本人が居心地よく過ごしやすいようにしている。ご家族の思いもあり、直接持ち込んだりされたりしている。朝夕は、時間を決めて信仰したり、作業をしたり、思い思いに過ごせるようにしている。自力での運動をしている方もいる。	見学させて頂いた居室では、馴染みの品や飾り物が貼られており、本人の生活感に適應した部屋造りとなっていた。各部屋にはトイレが設置してあるが、職員の方の丁寧な清掃実施のため、アンモニア臭はせず、清潔感があつた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	施設内、外はバリアフリー、要所に応じて設置している。居室にいたい気持ち、みんなと一緒にいたい気持ちを大切にしている、自尊心を重視、したいことできることを支援している。手すりを利用して歩行練習をしたりする方もいる。		